

ロジスティクス環境会議

第1回 委員長ミーティング 議事録

・日 時：2004年3月10日（木） 15：00～17：00

・場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

・出席者：12名

・議 案：

- 1) 各委員会の今後の活動概要について
- 2) その他

・開 会

稲束専務理事の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

・議事の経過

各委員会の委員長（一部、副委員長が代理）より、これまで委員会ごとに検討および確認がなされた「活動概要（案）」についての説明がなされた後、以下のような意見交換が行われた。

- 1) 源流管理による環境改善委員会としては、マニュアルを作成する。物流、ロジスティクス部門から他部門または物流企業から荷主企業に改善案等を投げかける際、定量的な裏付けが必要となる。是非、マニュアルの項目（活動）等に対応する定量的な指標等を環境パフォーマンス評価手法検討委員会としての成果としてまとめていただきたい。

環境パフォーマンス評価手法検討委員会

- 2) 源流管理による環境改善委員会の中で、マニュアルの項目（活動）に対する定量的な把握ができる仕組みをつくりたい旨の要望が出されている。LEMSの活動の中で、ロジスティクス活動と定量化の範囲や取組みによる削減効果の把握の関連をまとめた雛型がある。環境会議とも情報共有したい。

上記雛型は経済産業省の委託調査としてまとめられている。事務局が経済産業省に使用許可を申請する。

環境パフォーマンス評価手法検討委員会

- 3) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動の視点がインプット（例：燃料使用量）にあるのか、アウトプット（例：NO_x、CO₂等）にあるのか明確にした方が良いのではないか。省資源ロジスティクス推進委員会（アウトプットを主体に検討中）

- 4) 環境負荷を低減しようとした場合、例えば、包装資材では、材料のランク付けが必要になってくる。しかし、現時点でそこまで行うことは難しいため、課題としてあげておくべきではないか。

省資源ロジスティクス推進委員会

- 5) モーダルシフトについては、各モードを含めたインフラ整備が問題となっている。具体的な問題点を明らかにし、課題としてあげていくべきではないか。

省資源ロジスティクス推進委員会

- 6) 環境会議としての最終的なアウトプットの物差しを検討し、確認した方が良いのではない
か。環境パフォーマンス評価手法検討委員会としては、まずはCO₂を軸に考えているが、
各委員会の活動、成果を定量化する指標についてはバランスを取る必要がある。
全委員会共通
- 7) 環境会議として、何をターゲット(環境パフォーマンスの評価指標)に環境負荷低減に貢
献していくのか明確にするための議論が必要ではないか。CO₂では、他社と比較が出来な
いのではないため、自社では再資源化率を評価指標として活用しているが、LEMSで検
討されている評価指標や算出方法等、是非、実務で活動できるものにして欲しい。
再資源化率を算出するために、重量ベースで算出するとすると、紙とプラスチックで比
較できなくなるため、金額・容積・重量等、どの指標を活用すべきか、検討が必要。
全委員会共通、環境パフォーマンス評価手法検討委員会
- 8) 従来の物流活動の評価指標であるコスト、リードタイムに加え、環境を指標加えるべきで
あり、それが受け入れられる社会にすることが必要ではないか。そのためには、どのような
指標を活用すべきなのかという視点で検討することが重要ではないか。
全委員会共通、環境パフォーマンス評価手法検討委員会
- 9) 各委員会の中で検討される環境活動、評価等の範囲が明確にする必要がある。そのツール
として、ビジネスモデルフロー図のプロトタイプが早急に必要ではないか。
フロー図をもとに、環境負荷を低減するために当環境会議の範囲として変えられる部分と
提言として出していく部分を明確にしていくべきではないか。
増井先生を中心として、フロー図作成のための専門チームを編成する。
- 10) 当環境会議として変えられない部分に対しての指標は、最終的にはコストになるのではな
いか。環境活動が経済性としても成り立つようにしなければ、循環型社会を実現できな
いのではないか。
全委員会共通
- 11) 3カ年のスケジュールを考えた場合、第3回本会議が重要になる。第3回本会議が開催さ
れるときには、各委員会共に具体的なアウトプットを出していく必要があるのではないか。
各委員会共に、そのようにスケジュール化されているが、再度確認する。
全委員会共通
- 12) 勉強のために来ておられる方も多いので、セミナー、パネルディスカッションなどのイベ
ントを早くやったほうが良いように感じる。また、メンバーの意識合わせのためにも、
広報・普及専門委員会と共通基盤委員会で検討して欲しい。

以上の意見交換によって出された課題等については、引続き検討することが確認された。

・閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、稲束専務理事は閉会を宣した。

以 上